



～平成21年12月5日(土)

山口大学教育財団助成金事業

「つながちよる！世界と私の大発見！」と題して国際交流イベントが開催され、マンダフ～ナランの会も参加・出展しました。

今年10月から、山口大学獣医学部に研究員として滞在中の、モンゴルウランバートル出身のRENTSENHANDさんも応援に駆けつけ、モンゴルミルクティーなどを、来場者に振る舞いました。彼女は、五年前に山口大に留学経験があり、今回で二度目の来日です。留学生仲間から、モンゴルの会の事を聞き、代表の前田ハンダと会い、すっかり意気投合。以来、モンゴルをこよなく愛する会の仲間にも紹介され、寂しさも吹き飛んだとか。

「来年、モンゴルで会いましょう！」と約束しました。



今年も、モンゴル癌センターの子どもたちに  
クリスマス・プレゼントを贈ります♪

TOPICS



～平成21年11月14日～

モンゴル訪問副副会長として、大変お世話になった西木哲明先生が代表を務める西木薬局グループ総会に招待され、久しぶりの再会を喜びました。



一昨年、癌センターに入院している子どもたちにクリスマスのプレゼントを贈っています。今年もささやかながら、入院中の子どもたち約50人にプレゼントを贈りたいと考えています。そこで、会員の皆さまにご寄附をお願いいたします。一口千円から何口でも結構です。

【振込期限：12月21日(月)】

振込先：山口銀行山口支店(普通)  
6650688

マンダフ～ナランの会 代表 前田ハンダ



マンダフ～ナランの会  
ニュースレター

VOL.1

発行日  
平成21年12月

ご挨拶



会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。会長の西田健一でございます。さて、会長をお引き受けて、今年初めてモンゴルへ伺いました。

団長に山口県立大学江里健輔学長をお迎えし、総勢18名によるモンゴル訪問となりました。空港にはご家族はじめ関係者が出迎え、また、モンゴルの厚生大臣や環境大臣にもお会いする機会もあり、ハンダさんの人脈の広さに感心いたしました。

国立モンゴル癌センター訪問では、ハンダさんのお父様のご案内で、小児癌病棟の見学と点滴台や子どもたちへのプレゼント、山口市民の方々から集められた緑茶を贈呈し、大変喜ばれました。今後也会の活動を通し、山口とモンゴルの友好に努める所存です。皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

【会長 西田健一 医療法人社団向陽会阿知須同仁病院理事長】



Sain baina uu ?♪

前田ハンダです。皆様いつもハンダを応援してくれてありがとうございます。

Bayrlalaa♪

ハンダは日本に来て、ようやく、マンダフ～ナランの会の活動を通して、モンゴルのことをたくさんの人知ってもらえるようになりました。いろいろなイベントをする度に、山口の皆さんの暖かい心に感謝しています。そして、去年初めて、モンゴルスタディ・ツアーを企画して、小嶋道男団長他13名の会員でモンゴルを訪問し、モンゴルの癌センターの子どもたちに支援をすることが出来ました。今年はさらに、会長や、新しい会員の皆様、そして、山口大学の学生らが参加し、素晴らしいツアーが出来ました。これからも、ハンダ、頑張ります。Bayrtai ^

【代表 前田ハンダ】

マンダフ～ナランの会 会員募集中

マンダフ～ナランはモンゴル語で「朝日」を意味しています。モンゴルの大草原に真っ赤な太陽が顔を出し、モンゴル人の元気の源になっているイメージを表しています。山口の人にモンゴルのことを知ってもらうため「マンダフ～ナランの会」を設立し、国際活動団体としてイベントへの出展や、モンゴル文化講座・料理講座などを通して、県内各地でモンゴルの紹介をしています。

会では、モンゴルへの理解を深めていただくためモンゴルツアーを企画し、今年で2回目の訪問となりました。興味のある方は是非この機会に入会して、来年、一緒にモンゴルへ行きませんか？

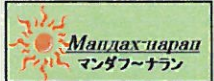
年会費 1,000円

モンゴルに興味のある方はどなたでも入会できます。



【前田ハンダ】

モンゴルウランバートル出身  
国立モンゴル大学大学院卒  
国費留学生としてモンゴル初の中国留学経験を持つ。  
2000年より県内各地でモンゴル講座などを担当。  
2006年の国民文化祭では通訳として、モンゴル国立芸術文化大学の招聘・随行に間わり、2007年のボディビル東アジア世界大会hallでも通訳するなど、山口県内では知られた存在。  
2008年マンダフ～ナランの会設立。  
現在、モンゴル航空MIAT指定代理店  
(株)チンギスハーン旅行の嘱託社員として、モンゴルスタディ・ツアーを企画運営している。



代表 前田ハンダ  
会長 西田健一  
連絡先：TEL&FAX

083-928-5880

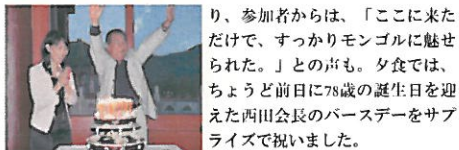
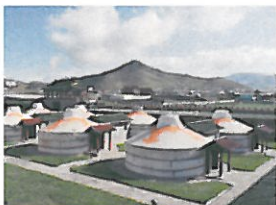


## ハンダと行くモンゴルスタディ・ツアー2009 報告

～平成21年7月31日～

今年で2回目となる、「ハンダと行くモンゴルスタディ・ツアー2009」の参加メンバー、団長江里健輔山口県立大学長・副団長西本哲明先生以下18名は、真夏の蒸し暑い日本を脱出し、草原の国、モンゴルへ出発しました。

関空からわずか4時間の快適な空の旅の後、空港には、一年ぶりに現地ガイド・ノモンや、ハンダさんの弟妹、モンゴルの友人らが出迎え、再会を喜びました。第1日目の宿泊は、「ホテルMONGOLIA」です。ウランバートル市内とは思えないような、雄大なロケーションにあ



り、参加者からは、「ここにただで、すっかりモンゴルに魅せられた。」との声も。夕食では、ちょうど前日に78歳の誕生日を迎えた西田会長のバースデーをサプライズで祝いました。

また、ハンダさんの子ども時代からの友人である、現モンゴル国厚生大臣も表敬に駆けつけ、夕食会はおおいに盛り上がりしました。この時期、夜は10時くらいまで明るいので、訪問団の為に特別に開催されたナードムでモンゴル相撲を見たり、ファイアーショーでダンスを楽しんで、夜遅くまで、モンゴル滞在初日を楽しみました。



～平成21年8月1日～



滞在二日目は、朝からホテル敷地内をジョギングしたり、誘い合って散歩したりと、出発までゆっくりと過ごし、一路、モンゴルの代表的観光地「テレルジ」へ。ウランバートル市内から車で約2時間の移動ですが、途中、小さなスーパーへ寄ってキャビアやハムを買い込み、車窓の景色に感動しながら到着です。テレルジでは、昨年と同じツーリストキャンプへ宿泊。参加者の一番の楽しみは乗馬体験です。モンゴルの馬は小ぶりですので、

初めての参加者も安心。馬場からの雄大な眺めには歓声が上がります。学生たちは川泳ぎを楽しみ、モンゴルの大自然を満喫しました。夕食にはハンダが特別に用意した、モンゴルの代表的料理、ホルホグ（羊の石焼き）



に舌鼓を打ち、モンゴルビールで乾杯しました。夜は残念ながら満天の星とまではいきませんが、会長のゲル（遊牧民の住居）に全員が集まり、諸ストープで暖まりながら、学生たちのパフォーマンスに大笑いして、二日目の夜は更けていきました。



～平成21年8月2日～

三日目、草原の朝。前夜遅くまで起きていたにも拘わらず、皆さん早起きし、朝食前には自由放策です。エーデルワイスや高山植物を写真に撮ったり、岩山に登ったりと、思い思いに過ごした後、ウランバートル市内へ帰ります。国立自然博物館で恐竜の化石を見学、ロシアレストランで昼食後、国営デパートでのショッピングやスファートル広場など市内観光を楽しみました。本日の宿泊は、モンゴルの一流ホテル「チンギスハーンホテル」です。早めのチェックインの後、しばらく各自部屋で休息を取り、夕方からは、市内の劇場でモンゴル民族舞踊コンサートを鑑賞するため、浴衣姿や、甚兵衛姿でロビーに集合です。生で聞くホーミーや馬頭琴の音色にすっかり魅了され、CD等を購入する人も。



夕食はモンゴルで有名な「モンゴリアン・バーベキュー」です。この店はダイナミックなパフォーマンスで人気。外国人観光客が多く訪れ、昨年のツアーでも好評でした。

夕食後ホテルへ戻り、西本副団長の部屋の【BAR NISHIMOTO】が開店し、夜遅くまで賑わいました。



～平成21年8月3日～

四日目、いよいよ、訪問団の公式行事となります。まず、ハンダさんのお父様（国立モンゴル医科大学教授）の案内で、国立癌センターを訪問し、小児癌病棟へ点滴台三台と、緑茶20kgなどを贈呈しました。この緑茶は地元誌「サンデー山口」や、(財)山口県国際交流協会の協力で山口市民から集まったものです。立ち会った病院関係者からは、葉の副作用を和らげる効果のある緑茶はモンゴルでは高価で、なかなか手に入らないため大変喜ばれました。また、子どもたちへのプレゼントは、会員の山口大学医学部保健学科1年の利川麻里さんが、メッセージを贈り、本屋のアルバイトで収集したキャラクターグッズなどをたくさん届け、子どもたちに大人気でした。

昨年の訪問では車椅子三台を寄附しており、これまでの会の活動について、地元テレビ局からは西田会長や代表のハンダさんに取材やインタビューがありました。

午後からは、ハンダさんの友人の現・環境大臣を訪問しまし



た。観光担当副大臣も同席し、両国の環境への取り組みや、観光行政について、意見交換をしました。江里副団長は流暢な英語で県立大のエコ21プログラムについて紹介し、大学連携での活動協力を提案しました。

また、夜のレセプションでは、会場のチンギスハーンホテルに、ハンダさんのご両親はじめ、ご家族、現地関係者を招いて、賑やかに楽しく交流をしました。ハンダさんの両親から西田会長に感謝の気持ちを込め、モンゴル民族衣装が贈られました。また、三年前の国民文化祭の時に山口県が招へいた、モンゴル国立芸術大学のオドスルン先生がホーミーを披露したり、当時の学生たちが集まって、馬頭琴の演奏や踊りで華を添え、また、2009年度ミスモンゴルの記念撮影など、終始笑顔の絶えないひとときとなり、モンゴル最後の夜を存分に楽しみました。



司会の大役を務めた  
山口大学理工学研究所の  
宮本真志君とモンゴル美女  
アリオナさん

番外編：平成21年8月4日～7日 東コビ「ハマリン・ヒード」への旅へ



公式訪問の後、Aグループを空港まで見送り、残りのメンバーは、ウランバートル駅から列車に乗って、二泊三日の東コビの旅に出かけました。列車で8時間の旅。中国国境近くのサンシャイド駅が終点です。

ここでは、毎年、横綱白鵬も訪れる「ハマリン・ヒード」があります。モンゴル人はみんな知っているパワースポットです。ここで体中いっぱいエネルギーを貰い、願い事が叶う山に登りました。

